

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2025. 10. 22

No. 744

2025年年末手当

趣旨説明

10月21日(火)、趣旨説明を行いました。以下、報告します。

2024年度は、輪軸組立不正や多くの脱線事故が発生し、会社全体で信頼回復に向け取り組んでいるが、失った信頼を取り戻すには相当の時間を要し、また相当の覚悟が必要であり、この危機的状況を労使が一体となって打破していかなければならない。また、国からの指定公共機関の責務として、輸送障害が頻繁に発生している中においても、安全安定輸送に努めていることを強く認識していただきたい。

物価や光熱水費等を含め、全てのものが値上がりし、組合員の生活は相当厳しいものとなっている。2025春闘・2025年夏季手当においては、社員の期待も虚しく低額回答に終わり、物価上昇の波に賃金が全く追いついていない。また、期末手当は昔のような嗜好品費ではなく生活費の一部となっており、年末手当においては、年越しや正月等で出費が重なり厳しさは増すばかりである。

労働条件改善として、65歳定年制導入等々の人事制度一部修正を行ったが、今の生活レベルを上げていかなければ会社に対しての不満や不安が増し「このままJR貨物に働いていて大丈夫なのか？」と、離職が加速していく。他の企業は、賃金アップや働きやすい職場環境作りを積極的に進めており、将来を見据えた改革を断行している。輸送障害や自然災害が多発し業績が思うように伸び悩み、会社が描いた展望に届いていないことは十分に理解しているが、このような状況下においても将来を見据えて良い労働条件を示すことは、JR貨物にとって大きなアピールになり、離職防止や優秀な人材確保の足掛かりに繋がる。これは、グループ会社においても同様なことが言え、世間からの期待に応えていくためにも、JR貨物グループ全体の士気を向上させ、将来への発展に繋げていくことが必要である。

貨物鉄産労は、会社経営を常に考え、JR貨物グループにおける政策課題解決に向け、JR連合と共に取り組んでおり、今年度だけの業績に特化せず、これまでの業績を考慮しても私達の主張に答えられる体力は十分にあると認識する。先にも述べたが、組合員の安全安定輸送により、日々、大きなトラブルもなく列車は運行され、会社が策定した「JR貨物グループ長期ビジョン2030」を構築するためにも組合員の協力が不可欠であり、会社全体の士気を上げるためにも労働条件改善は必須である。

最後に、これまでに全国各地で起きた甚大な自然災害により、多くの方々が被災され復興にはまだまだ時間を要する。被災された方々のためにも、復興に貢献できる安全で信頼される会社を築き

上げ、社会的使命を果たしていかなければならない。輪軸組立不正から1年が経過したが、失った信頼を取り戻すには、まだまだ時間を要し、会社の状況が厳しい時こそ経営者の手腕が試される。予想をはるかに上回るスピードで人口減少進んでおり、人材確保・人材育成・人材定着が出来なければJR貨物は衰退の一途を辿り、JR貨物ブランドを高めていくには、労働条件改善を積極的に進めていかなければならないことを強く申しておく。

以上を踏まえ、労使は同じ船に乗っており、役割・立場は違うが労働者が傾けば船が傾くことを強く認識していただき、組合員の悲痛な叫びと私達の主張を受け止め、満額回答を強く求める。

以 上

会社・趣旨は承った。経営陣に伝え、交渉を進めていきたい。

組合・組合員の生活は、かなり苦しいことを認識していただき、誠意ある回答をお願いしたい。

次回交渉(収入動向)は何日か。

会社・10月28日を予定している。

組合・了解した。

収入動向は、10月28日（火）を予定しています。
